

新美南吉記念館だより

NIIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM NEWS

発行 新美南吉記念館 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 Tel. 0569-26-4888 <http://www.nankichi.gr.jp>

第32回 新美南吉童話賞 入賞者発表!

最優秀賞(文部科学大臣賞)

「北風のおくりもの」／河合南美さん(愛知県豊橋市)

○審査員講評

心配性の子ぐまと優しい母さんぐまのやりとりが微笑ましく、読後感のよい作品でした。子ぐまの心配事の一つ一つが、あどけなく、かわいいのが魅力的です。根気よく、しかも温かく子どもの問いかけに答える母ぐまの姿は、新美南吉作品「きつね」に出てくる母親に重なり、南吉が終生求めて止まなかった親子の絆を感じさせます。(山本悦子)

新美南吉オマージュ部門

大賞(半田市教育委員会賞)

「マーガレット」／久守芽里依さん(愛知県安城市)

○審査員講評

入れ子のように丁寧に組み合わせられた時間のなかで、人と人、人と動物との心の通い合いを描いた珠玉の一篇です。タイトルに用いられたマーガレットが心の通い合いの象徴として働いている点も見事です。温かさや悲哀が同時に味わえるところにも、南吉作品へのリスペクトが感じられました。(酒井晶代)

第 三十二回新美南吉 童話賞には一九六 六六の応募があ り、その中から二十編の作 品が入賞しました。

自由創作部門から最優秀賞に輝いた河合南美さん作「北風のおくりもの」は、

今まさに冬眠しようとしている、熊の親子のお話です。

心配性の子熊は、冬眠している間に友達が自分のことを忘れてしまったらどうしようと思ったり、春が迷子になつて、自分のところにだけ来なかったらどうしよう……と不安になつて、なかなか眠ることができません。

そんな子熊の心配事にお母さん熊はうとうとしながらも、一つ一つ優しく答えてあげます。子熊とお母さん熊、二匹の親子のやりとりにとっても心が温かくなる作品でした。

新美南吉オマージュ部門の大賞となつた久守芽里依さん作「マーガレット」は、「手袋を買いに」のオマージュ作品です。祖父の代から続く帽子屋を継いだ『私』は、自信をなくし、店がなくなればいときえ思っていました、祖父母が作っ

た帽子を大切にしてくれて

いる人と出会い、仕事を好きになります。それから

『私』は結婚もして、しばらく時が過ぎた、ある寒い雪の日のこと。夜、コンコンと小さな音がするので、戸を少し開けてみると、隙間から小さな子狐の手が出てきて……。異なる生命とのふれあいや、古くなった商売への思いなど、端々に南吉へのオマージュが感じられる作品でした。

どちらも当館ホームページにある童話賞のページで公開していますので、ぜひご覧ください。そのほかの入賞者は次の通りです。

＊

自由創作部門

【一般の部】

▽優秀賞

〈愛知県知事賞〉

「さわがしいおとしもの」

ネコリハコリ

(東京都新宿区)

〈半田市長賞〉

「チュウリップを探して」

天利美香子

(神奈川県横浜市)

▽特別賞

〈ミツカン賞〉

「星の休日」

いいだしんや

(愛知県名古屋市中区)

【知多信用金庫賞】

「すずめのチュンとたんぽぽ」

小原小枝(愛知県名古屋市中区)

〈中部電力パワーグリッド株式会社賞〉

「キノコ侍」

夏目知佳(宮崎県えびの市)

【中学生の部】

▽優秀賞

〈公益社団法人

半田青年会議所賞〉

「国民の願いと王様」

幸田貫市(大阪府大阪市)

▽特別賞

〈半田信用金庫賞〉

「おすそわけ」

川嶋風香(愛知県岡崎市)

▽佳作

「ようこそ、本の国へ」

荻野寿々帆(大阪府堺市)

「二人のピアノリスト」

林亨(大阪府大阪市)

【小学生高学年の部】

▽優秀賞

〈審査員奨励賞〉

「ごほうび付きのお助け

バッチ」

中村紗也(愛知県安城市)

▽佳作

「星野原」

武田理央(東京都板橋区)

「星空ホテルへようこそ！」

安田京加(兵庫県神戸市)

【小学生低学年の部】

〈中目新聞社賞〉

「少年たんでい団」

中村哲誠(愛知県安城市)

▽佳作

「おもちゃ町 うんどう会」

安田侑加(兵庫県神戸市)

「はるくん とちいさなお月さま」

山口慧

(愛知県知多郡阿久比町)

＊

新美南吉オマージュ部門

▽優秀賞

〈半田市議会議長賞〉

「おばあさんと子ぎつね」

矢代稔(神奈川県横浜市)

▽特別賞

〈新美南吉顕彰会賞〉

「小雪のおつかい」

伊東律花

(茨城県稲敷郡美浦村)

▽佳作

「世界の色は何色か」

酒井絵理香(愛知県刈谷市)

＊

今年にはコロナ禍によるス

テイホームの影響か、大幅

な応募増となりました。入

賞した皆様、おめでとうございます。

ガリ版体験 開催

十一月二十一日(土)に、記念館会議室と工作室で「ガリ版体験」を開催し、二十四人の方が参加されました。

ガリ版(謄写版)印刷とは、ロウの塗られた原紙を鉄筆で傷つけ、その穴から出るインクを紙に写すという印刷方法で、明治時代に考案されました。昭和四十年代まで盛んに使われていたので、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。

南吉も文学仲間とともに文芸誌『オリオン』を発行したり、安城高等女学校で生徒詩集やテスト用紙を作る際、自ら鉄筆を執り、ガリ版印刷していました。中

学時代には自分の文芸誌を作るため、友人に借金してまでガリ版の機材を購入しています。南吉が書いた「借錢」という小説はこの時の体験を基にっていて、ガリ版の機材を手に入れた喜びとともに、借金をしたこと

が次第に苦になってくる心理が描写されています。今回、そんなガリ版印刷が体験できるイベントを初めて開催しました。当日は



甦れ！「童話の森」に木漏れ日を

十一月一日(日)から、南吉記念館の敷地内にある「童話の森」を整備するプロジェクトがスタートし、これまでに五回、密集した木の伐採や落葉かきなどをしました。

記念館のすぐ南側には、「ごんぎつね」の舞台となった中山と呼ばれる森があります。現在は「童話の森」として遊歩道を整備し、自由に散策できるようにしていますが、年々木々が増えて、昼間でも薄暗いと感じるほど鬱蒼としてきていました。

南吉が生きていた頃、知



多半島の森は今ほど木が密集せず、明るい森だったといひます。人々が生活のために枯れ木や落葉を集め、土壌は瘦せて、地面まで木漏れ日が届くので、様々な植物が生えていました。そこで今回、NPO法人「ごんぎつね」とネットワーク」が中心になって、「童話の森」を再び元の多様性のある森へ戻して行こうと、整備プロジェクトを始めることにしました。

一回目の整備では、長年「童話の森」で自然観察路の管理をされていた大橋秀夫さんから、南吉の作品に出てくる植物や伐採しても問題ない木などを教えていただき、間伐と落葉かきをしました。二回目以降も同様に整備を進め、森の中に少しずつ光が入る



ようになってきています。木々だけでなく繁茂する笹も切り払い、ヒイラギなども南吉とゆかりのある植物がよく見えるようにもなりました(右写真)。

このプロジェクトはただ整備をするだけではありません。間伐した木材で樹木の解説板が作れないかなど、自然を生かした取り組みについても模索しています。詳しくは、ローカルメディア「はんの木」(<https://hannoki.org/>)で紹介していますので、ぜひ一度覗いてみてください。

#南吉雑記帳、はじめました

新美南吉記念館公式ツイッターアカウント(@gonkichiro)では、南吉のことをもっと知りたいという方のために、十二月四日(金)から新企画「#南吉雑記帳」を始めました。新美南吉童話イメージキャラクターの「ごんぎつね」が、南吉や南吉の作品について学芸員に質問し、答えてもらおうというコーナーです。

初回は誰もが知っている「ごんぎつね」について、ごんぎくんが「南吉さんはいつ「ごんぎつね」を書いたの?」と質問しました。これに対して、昭和六年十月、南吉が十八歳の頃の作

品であることや、母校で代用教員をしていた時に、児童へ語って聞かせていたことなどを学芸員が解説しました。さらに当時の南吉の写真も添付したところ、普段よりも多くの反応をいただくことができました。

「#南吉雑記帳」の更新は不定期ですが、南吉について詳しく知らない方でも楽しめるよう幅広く質問をしていきます。作品のことでだけでなく、南吉の好き嫌いや趣味、創作に対する姿勢なども紹介していく予定です。ハッシュタグ「#南吉雑記帳」で検索すれば過去の記事が全て閲覧できますので、ご活用ください。

ごんぎくん(新美南吉童話イメージキャラクター)
@gonkichiro

いつも応援ありがとうございます！
突然だけど、今日から新しく#南吉雑記帳という企画を始めることにしたよ(〇*)
僕が南吉記念館の学芸員に、南吉さんや南吉さんの作品について質問して、それに答えてもらうというコーナーだよ
面白いと思ってくれたら、いいねやリツイートよろしくね(*w*)♡

南吉雑記帳

新美南吉のことをもっと知りたい！
という方のために、ごんぎくんが南吉記念館の学芸員にいろいろな質問をします。ちょっとした豆知識から、意外な情報も飛び出すかも？
過去のQ&Aは#南吉雑記帳で検索してください。質問も募集中です！

新美南吉童話イメージキャラクター
ごんぎくん

ほかに記念館のツイッターでは、日々の記録やお知らせ、南吉の詩の紹介などを行っています。興味がある方は、ぜひフォローをよろしくお願いします。

記念館からのお知らせ

榊原澄香ペーパーアート展

南吉童話を題材にペーパーアート作品を制作されている榊原澄香さんの作品を、新作を含め四十六点展示します。



会期 4月11日(日)まで

場所 記念館展示室

※高校生以上は展示室観覧料(220円)が必要です

ペーパーアート教室

南吉の童話「牛をつないだ樁の木」を半立体のペーパーアートにします。



▶B5サイズ(額縁付き)

日時 2月14日(日)

13時30分～15時30分

場所 記念館工作室

対象 小学4年生以上(大人のみの参加も可)

定員 12名

講師 榊原澄香氏

持ち物 はさみ、カッター、ピンセット、木工用ボンド、鉛筆、マスク

参加費 500円

申込み 1月16日(土) 9時30分から電話又は窓口へ

※感染対策のため付き添いのみの方は入室できません

以上の催しは新型コロナウイルスの動向で全て変更になる場合がございます。問合せ・申込みは新美南吉記念館まで。

TEL 0569(26)4888

日誌抄・

十月(神無月)

▼4日 「ごんの誕生日」。

188名参加▼同日 ミュージアムトーク。6名参加▼

6日 成岩小学校で出前授業。1000名参加▼9日 花園小学校で出前授業。135名参加▼11日 NHKラジオ第1「ラジオ文芸館」で「おじいさんのランプ」が朗読される▼18日 第32回新美南吉童話賞一次審査会。於記念館会議室▼同日 ミュージアムトーク。2名参加▼24日 ミュージアムトーク。7名参加▼26日 NHKラジオ第1「らじるラボ」のコーナー「らじる文庫」で、南吉作品の童話と詩が朗読される。全5回▼31日 童話の森整備1回目。8名参加

十一月(霜月)

▼4日 第32回新美南吉童話賞最終審査会。於記念館会議室▼同日 新美南吉記念館事業推進委員会▼8日 ミュージアムトーク。4名参加▼14日 観光PRキャンペーン「今こそ読みたい、南吉の言葉。」始まる

▼同日 「新美南吉 絵本のおくりもの」がEテレで全国放送され、「にひきのかえる」と「でんでんむしのかなしみ」が朗読される▼18日 BSフジ「からだ研究所」が記念館長を取材▼20日 半田市民交流セ

ンターで「ベラルーシの子どもたちが描いた南吉感想画展」を開催(12月13日)▼21日 「ガリ版体験」。24名参加▼23日 ミュージアムトーク。10名参加



ベラルーシの子どもが描いた「明日」

昨年、東欧のベラルーシ共和国に住むアリナ・ルキヤノワさん(九歳)が、南吉の詩「明日」をイメージした絵を描いてくれました。アリナさんは、以前記念館へ十六枚の南吉読書感想画を寄贈してくださったハーモニー絵画教室に通っています。蝶々やてんとう虫など、詩の中に出て来る生き物が緻密に描きこまれ、とても九歳の子が描いたとは思えないほどです。

記念館ではコロナ禍で不安を抱えている人を励ますため、「明日」



を朗読してSNSで発信してもらおうと呼びかけています。昨年、ベラルーシの日本文化情報センターがこの企画に賛同し、日本語とベラルーシ語の両方で朗読動画をあげてくださいました。それを絵画教室のエレーナ先生が紹介され、この素敵な絵が誕生しました。

〈1月の休館日〉
1日～3日、12日(火)、13日(水)、18日(月)、25日(月)
〈2月の休館日〉
1日(月)、8日(月)、9日(火)、15日(月)、22日(月)